

作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	林 昭次
所属機関名	生物地球学部 生物地球学科
職位	准教授
在籍年	8 年

教育の責任

生物地球学部において、古生物・恐竜学コースの講義、実習、卒業研究を担当している。主な担当科目としては、1 年生向けの「古生物学概論」、2 年生向けの「恐竜学Ⅰ」、「野外調査法実習Ⅱ」、「動物系統学」、そして 3 年生向けの「古哺乳類学」や「古生物学実習」がある。

教育の理念

教育の理念として、講義・実習・卒業研究を通して、学生には専門知識を習得させるだけでなく、論理的思考力、文章作成能力、プレゼンテーションスキルといった社会人として必要なスキルの指導に重きを置いている。また、社会人としてのマナーや倫理観の育成も重要視しており、特に他者との関係において相手の立場を理解し、誠実なコミュニケーションを取る能力を養うことが、学生が社会で活躍するために不可欠な力であると考えている。

これらの取り組みを通じて、学生が社会に貢献できるような判断力や実行力を持った人材の育成に繋がると考えている。

教育の方法・方針

（方針）

- ・知識を体系的に習得させる能力を養成：講義や実習を通して、学生が専門的な知識を体系的に理解し、応用できる能力を育成する。
- ・論理的思考力とスキルの育成：講義や実習を通じて、学生が自ら考え、問題解決に取り組む姿勢を養う。論理的に思考し、説得力のある文章を書く能力を指導し、研究活動を通じてスキルを発揮する場を提供する。
- ・社会的スキルの指導：研究や実習の場で、社会人としてのマナーや倫理観を育成する。特にコミュニケーション能力や協調性を高めることに重点を置き、現実の社会や職場における適応力を身につけさせる。

（方法）

- ・アクティブ・ラーニングの導入：従来の講義形式に加え、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを活用し、学生が主体的に学ぶ機会を提供する。
- ・個別指導とフィードバックの充実：卒業研究などにおいて、個別フィードバックを詳細に行い、改善点を明確に示すことで成長を促す。
- ・多様な評価方法の導入：テストやレポートに加えて、プレゼンテーションやグループプロジェクトなど多角的な評価方法を採用し、学生の総合的な能力を正確に評価し、改善を図る。
- ・倫理教育の強化：研究における倫理的な問題や社会的な行動基準について、事例研究やディスカッションを通じて理解を深めさせる。特に、協力やチームワークが重要な場面で、相手を尊重し、誠実な態度を身につけさせる教育を強化する。

これらの方針と方法を組み合わせることで、学生が専門知識だけでなく、社会で活躍するために必要なスキルや倫理観を持つ人材として成長することを目指している。

教育の成果

（講義）2024 年度春学期に行われた「恐竜学 I」と「古生物学概論」の授業評価アンケートでは、8 割以上の学生が「満足」または「ほぼ満足」と回答しており、高い満足度が確認できる。自由記述には、「恐竜学への理解が深まった」や「古生物に関する基礎から最新の研究まで幅広い知識を得られた」といったポジティブなコメントも見られ、講義を通して一定の成果が得られていることが伺える。しかし、一部の学生からは「講義の進行が速い」との意見があり、改善の余地があると認識している。講義内容が豊富なため、情報が学生に十分に伝わりきらない場合があったと考えられる。

（卒業研究）学生の卒業研究においても成果があり、学生たちは相手の立場を考慮し、分かりやすい説明やプレゼンテーションを行う能力を身につけている。特に、指導した 5 名の学生は学会発表において賞を受賞し、助成金も獲得するなど、その研究内容が高く評価されている。このように、教育を通じた研究指導が結果を生み出していると評価できると考えられる。

今後の目標

社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力や論理的思考能力を向上させるためには、学生が自ら興味を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つことが最も重要な要素である。この姿勢を育成するため、古生物学・恐竜学の分野の魅力をより一層伝えることを目標に、以下の取り組みを実践したい。

- ・最新の研究成果と実社会との関連を授業で紹介する：可能な限り毎回最新の研究成果や自身の研究プロセスを紹介し、古生物学・恐竜学の魅力を伝える。また、これらの学問が社会にどのように役立っているかを話し、実社会との関連性を示すことで、学びの意義を強調する。

- ・学生が質問しやすい環境づくり：学生が疑問を気軽に質問できるよう、課題シートに質問や感想を書く欄を追加する。これにより、学生との対話を促進し、疑問解消の機会を増やす。

- ・研究活動を通じた成功体験の提供：研究活動を通して成功体験を積んでもらえる学生を増やし、学生に自信を持たせることを目指す。

- ・魅力的な研究室環境の整備：学生が「研究室に行きたい」と感じられるような環境を整える。具体的には、教員や研究室の学生が行っている研究成果を積極的に発信し、研究室の魅力を紹介することで、学生が研究に対して興味を持ち、参加しやすい雰囲気を作り上げる。また、学生が教員に対して気軽にコミュニケーションを取れる環境を作り、質問や相談がしやすい雰囲気を醸成することで、学生が安心して研究に取り組めるようなサポート体制を強化する。

根拠資料

- ・授業評価アンケート ・アジア恐竜協会 国際学会参加助成 2019 年 6 月
- ・古生物学会ポスター賞（受賞年度 2023 年 2 月、2019 年 6 月）
<https://www.palaeo-soc-japan.jp/awards/archive.html#06>
- ・2019 年鳥学会ポスター賞受賞者 <https://ornithology.jp/newsletter/articles/552/>
- ・建設コンサルタンツ協会近畿支部第 52 回研究発表会 奨励賞
<https://www.kk.jcca.or.jp/activity/>